

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 エレミヤ 1:11…………… 御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
- \*賛美 …………… 25番
- \*交読文 …………… 43番
- \*使徒信条 …………… 会衆一同
- \*頌栄 …………… 171番
- 礼拝のための祈り ……… 1部:渡辺和歌子 働き人 2部:小林美之 働き人
- 賛美 …………… 444番
- メッセージ …………… 人の思いを超えた神の最善なる介入(ローマ 1:11-15)
- 御言葉を適用する祈り …… 会衆一同
- 賛美 …………… 401番
- 献金感謝の祈り ……… パスター
- 報告 ……………
- \*主の祈り …………… 会衆一同
- \*祝祷 …………… パスター

天声教会は

- ・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。(ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5)
- ・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。(ローマ 10:10)
- ・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。(ローマ 10:10)
- ・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。(テサロニケ 3:5)

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

わたしは地の果から、\_\_\_を連れてき、地のすみずみから、\_\_\_を召して、\_\_\_に言った、「\_\_\_は、わたしのしもべ、わたしは、\_\_\_を選んで捨てなかった」と。恐れてはならない、わたしは\_\_\_と共にいる。驚いてはならない、わたしは\_\_\_の神である。わたしは\_\_\_を強くし、\_\_\_を助け、わが勝利の右の手をもって、\_\_\_をささえる。見よ、\_\_\_にむかって怒る者はみな、はじて、あわてふためき、\_\_\_と争う者は滅びて無に帰する。\_\_\_は、\_\_\_と争う者を尋ねても見いださず、\_\_\_と戦う者は全く消えうせる。\_\_\_の神、主なるわたしは／\_\_\_の右の手をとって\_\_\_に言う、「恐れてはならない、わたしは\_\_\_を助ける」。主は言われる、「虫にひとしいヤコブよ、イスラエルの人々よ、恐れてはならない。わたしは\_\_\_を助ける。\_\_\_をあがなう者はイスラエルの聖者である。見よ、わたしは\_\_\_を鋭い歯のある／新しい打穀機とする。\_\_\_は山を打って、これを粉々にし、丘をもみがらのようにする。(イザヤ 41:9-15)

ローマ人への手紙には、全ての人が罪に勝利できる方法と、聖化される方法が記されており、さらにその先の「栄化」に至る真理が詰まっている。今回、パウロがローマ書を記すきっかけとなった出来事と、背後で働く神のわざ、そして、私達は神が示される道にいかにならぬかを見ていきたい。

『わたしはほかの異邦人の間で得たように、あなたがたの間でも幾分かの実を得るために、あなたがたの所に行こうとしばしば企てたが、「今まで妨げられてきた(εκωλοθεν エコルセン)」。(ローマ 1:13)

パウロはずっとローマに行きたかったのに、妨げられていた。彼はなぜローマに行きたかったのか？ それは彼の宣教戦略が「都市宣教」だったからである。彼が宣教した都市(アテネ、コリント、エペソ、ピリピ等)は、その時代その地域の中心都市だった。そこが福音化されるなら、周辺に多大な影響を及ぼす。

ローマは当時の世界の中心であり、彼はそこを福音化し、彼自身の手で宣教センターを立てたかったのだが、どういわけかパウロは、何度チャレンジしても、どうしても行く事が出来なかった。

「今なお妨げられている」のギリシア語「εκωλοθην(エコルセン)」は、直接法アオリスト受動態が用いられており、幾度もチャレンジしたのに、鉄板のように妨げられ続け、今に至っている、という事を意味する。このように、自分がどうしてもある方向に行こうとしたのに、鉄板のように妨げられ続ける、という経験を私達もするが、神が敢えてそのようにしているからだ。ここで驚くかもしれない。パウロが世界の中心・ローマに福音を伝えるに行くのは、御心でないのか？彼の戦略は理に適っているし、彼ほどの人がローマに行ったなら、どれほど多くの働きが出来るだろう？どう考えても「良い事」づくしなのに、どうして神はそれを阻むのか？

このような場合、今自分は神の意図に反した方向に動こうとしているのだと気づき、軌道修正すべきである。このように、あからさまに神によって道を閉ざされる「神的受動態」により、神の御手の下で私達の人生は練られ、形造られて来たのであり、歴史が形造られて来たのだ。一つははっきりしている事は、もし神があの時、パウロをローマに簡単に行かせていたなら、ローマ人への手紙は存在せず、私達の聖書からは、ロマ書は抜けていた事だ。

そしてもう一つ、パウロが「行かなかった」事によって成った事がある。ローマ16章には、約50名ほどの人物の名前が記されており、そのメンバー一人一人に対してパウロは「よろしく」と挨拶を送っているが、このような素晴らしい働き人達が次々とローマ入りして教会を開拓し、彼らが教会を開拓する段階において、あるいは、教会を成長させる段階において、大きな労苦と共に犠牲を捧げ、素晴らしい信仰を、神と人との前に示し、そして50人が、パウロ抜きでそれぞれが成長し、御業を為し、神に栄光を捧げていったのだ。

まずは16章1節、フィベという女性執事はパウロのみならず多くの人を援助し、そして彼女が多くの危険を冒してもパウロが書いたこの手紙をローマに、そして私達にも送り届けてくれた。その次に登場するのは、プリスキラとアクラ夫婦である。「彼らは、わたしのいのちを救うために、自分の首をさえ差し出してくれたのである・・・。また、彼らの家の教会にも、よろしく。」(16:4-5) この夫婦の「家」の教会は、彼らの天幕づくりの工場であり、当時ローマ軍団に年間1000の天幕を献上する工場であったため、かなり大きかったという。

その彼らは、神の働きのためにその工場を神の国のために捧げ、さらにはパウロに「自分の首をさえ差し出した」とまで評されている。彼らは教職者ではなく「平信徒」であるが、へたな教職者よりも遥かに大きな働きをしたため、2000年ほどの歴史があるコリントの教会には、今なおパピアス、アクラ、プリスキラ、フィベのアイコンがあり、現代も、彼らの働きを覚えて掲げられているという。

この富んだ夫婦が、神によってパウロと「出会わせられた(神的受動態)」事により、彼らが神の働きに参加するようになり、パウロも多くの宣教の助けを得て、そして世界に福音が広められている。

人の目には、今自分がしている働きも出会いも「たまたまそうなった」と映るかもしれない。ルツとボアズは「たまたま」会ったが、その出会いがダビデを生み、後のイスラエルと世界の歴史を動かした。クレネ人シモンも、たまたまイエス様の十字架の場面に会ったが、その出会いが後にローマ教会牧会者を生み、そしてコンスタンティヌス大帝を生み、ローマ帝国がキリスト教国家に変わる基礎をつくった。人の人生と人の歴史の一つ一つに神は「神的受動態」によって介入し、人はそれで御旨を実行し歴史を紡いで行くのである。

# 横浜天声キリスト教会

## 礼拝 週報



### 集会案内

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → [youtube.com/c/横浜天声キリスト教会](https://youtube.com/c/横浜天声キリスト教会)

#### 日曜礼拝

1部礼拝 10:30 賛美 11:00 礼拝  
食事/フェローシップ/賛美 12:30~  
2部礼拝(韓国語通訳有) 14:00

金曜徹夜祈禱会 21:00~

#### 日々の集会

月~金 早天祈禱会 5:00~  
火・木・金 賛美と祈りの集会 13:00~  
火~木 夜の祈禱会 19:30~

#### 水曜礼拝

1部 13:00~  
2部 19:30~

### アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅  
6番B出口を出てまっすぐ徒歩5分  
JR・関内駅より徒歩10分  
京急線・日ノ出町駅より徒歩10分

関内駅から伸びる大通公園沿い、  
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、  
1Fがファミリーマートになっております。



聖書メッセージを携帯で  
聖書メッセージをメールで  
毎日携帯にお届けします。  
左記コードを読み込み、  
空メールを送信するだけ！



〒231-0058

パスター: 林和也

神奈川県横浜市中区弥生町2-17 ストックタワー大通公園 I-201

TEL/FAX: 045-326-6211

Homepage: <http://voh.plala.jp/>

email: [ephes\\_03-tensei@yahoo.co.jp](mailto:ephes_03-tensei@yahoo.co.jp)



YouTube